

20062

大腿動脈穿刺アプローチにおける Femostop® II PLUS を用いた止血の有用性

【はじめに】カテーテル治療における、大腿動脈穿刺アプローチの止血方法は、用手圧迫またはデバイスを用いた止血が行われている。下肢動脈カテーテル治療においては、同部位から再度穿刺を行う可能性も高く、デバイスを用いた止血は懸念される症例がある。当院では、Femostop® II PLUS (SJM) を用いた止血を行っており、今回、当院で作成したプロトコールでの止血方法および、Femostop® II PLUS の有用性について報告する。

【方法】メーカー推奨のプロトコールを基に、カテーテル室内での止血が行えるよう、当院でプロトコールを作成し検討を行った。検討後、より安全に止血を行うため、プロトコールの見直しおよび変更を行い、再度検討を行った。

【結果】初期プロトコールでは、初期加圧が高くなることによる下肢色調の悪化、および苦痛の増大、また、短時間で器具を外し枕子固定へ変更することによる再出血を起こす頻度が高かった。再度プロトコールを見直し変更したことで、色調および苦痛の軽減を図ることができ、再出血なく枕子固定への変更を行うことが可能となった。また、止血時の穿刺部確認が行えるため、器具の取り付け、取り外し以外はコメディカルで止血管理を行うことができ、医師への負担が軽減された。

【結語】Femostop® II PLUS を用いた止血を行うことで、医師の負担を軽減し、用手圧迫と同等の効果が得られる。また、期間をあげず同部位からの穿刺を行うことが可能である。しかし、安静が保てない症例および、肥満体型での止血においては課題が残る。